令和2年度 学校評価総括表

奈良県立香芝高等学校

学校運営方針	本校の教育は、「元気いっぱい 一歩前へ」をスローガンに、「明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒」の育成を目指し、「和敬・創造・錬磨」の校訓の精神に基づき、生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力のある学校作りを行うために、教職員が一丸となって教育活動に取り組む。 「和敬」・・・個人の尊厳を重んじ、礼節を尊び、常に和敬の心をもって自他の向上に努める人間を育てる。 「創造」・・・学業に励み、真理を希求し、勤労と責任を重んじ、日々たゆまず努力し、新たな文化の創造に努める人間を育てる。 「錬磨」・・・常に心身の錬磨に励み、高い知性と健全な身体を培い、強固な意志とたくましい実践力をもった人間を育てる。	総合評価 B
目指す生徒像	明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒	

令和元年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的方策	自己評価結果※	
○ 観点別評価の実施や新たに設置した機器の活用によって、各教科で授業改善・工夫等の取組が進んだ。今後、さらに指導と評価の一体化や情報活用能力の向上を目指した取組を行っていく。 ○ 基本的な生活習慣を身につけ、規律ある学校生活を送ることができていると自覚する生徒がほとんどであり、今後も、きめの細かい指導を継続する。 ○ 部活動や学校行事への生徒の積極的な参加が見られた。今後も、自主的・自立的な活動意欲を高めたい。	【1】 個性・能力・可能性を伸ばすキャリア教育の推進	① 主体的・対話的で深い学びの実現を図りながら、確かな学力を育成する。	B	B
		② シラバスの活用による計画的な学習指導により、家庭学習の定着を図る。	B	
		③ 主体的な進路選択に向けて、学ぶこと・働くことの意義を理解させる。	B	
	【2】 自他の生命を尊重する心の育成と、規範意識の向上	① 爽やかな挨拶とマナーの向上、美しい制服の着こなしを定着させる。	B	B
		② ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等を通して、主体性と協調性を身に付け、社会の一員として、社会に貢献する意欲と責任ある態度を育成する。	B	
	【3】 たくましい心身の育成	① 運動に主体的に取り組む姿勢と、自らの健康の保持増進への実践力を育成する。	B	B
		② スクールカウンセラーを活用し、生徒の悩みに対応する。	B	
	【4】 教職員の協力による教育力の向上と働き方改革の推進	① 観点別評価の充実を図り、教育における情報活用能力の向上を推進する。	A	B
		② 教職員の業務の適正化、効率化に取り組む。	B	

分野	具体的目標（評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果 ※		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等
学習	観点別評価の充実	観点別評価規準表を基に、指導と評価の一体化を図り、評価結果を指導に生かす。	保護者アンケートの「学習指導に熱心に取り組んでいる」で、肯定的な意見9割を目指す。	A	B	アンケート結果は、全体として84.3%であり、目標数値をほぼ達成できた。	引き続き研修・研究等の充実に努める。
	思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善	新テストに対応するため、学力の三要素を踏まえた授業の展開を目指す。	生徒アンケートの「授業に対する充実感」で、肯定的な意見8割を目指す。	B		アンケート結果は、全体として61.5%であり、例年と変わらない数値であった。	令和3年度大学入学共通テストの内容を踏まえ、授業等の改善を図る。
	集団行動の意義を理解し、実践するともに、健康・安全に留意し、行動することができる生徒の育成	学校生活や社会生活において集団のなかで健康・安全に留意し、秩序正しく主体的に行動できるよう指導する。また、体育大会の計画、運営、実施に生徒が主体的に関わるよう働きかける。	健康診断後に受診を指示された生徒の、受診率を前年度より1割増を目指す。体育大会後にアンケートを実施する。その中で、計画、運営、実施のいずれかに、主体的に活動できたと回答する生徒9割以上を目指す。	—		新型コロナウィルスの影響により、健康診断は時期を遅らせて実施したが、感染を危惧し病院での受診をためらう生徒が多くいた。また、体育大会は中止されたため、両者とも、設定していた数値的な指標を当てはめ、判断することはできない。ただ、1年間を通して感染予防に対する意識が高まり、学校全体で各種の取組を進められたことは、学校保健に対する今までの当たり前を見直す好機となった。	来年度は、学校として、または個人としてどの程度感染予防対策に取り組めたかを計る指標を設けたい。体育大会については、例年通りの形で実施できない可能性もあるので、この機会に生徒の意見も取り入れながら、生徒の主体性を育む実施法を模索する。
生活指導	基本的な生活習慣の確立	学校生活及び通学時において、制服の着こなし指導を徹底する。	生徒アンケートの、「身だしなみを正しくしている」と答えた生徒が9割以上である。	A	B	1年生対象の着こなし講座が実施できなかったが、アンケートでは9割以上が正しくしていると答えている。細かな部分できちんと着こなせていない生徒やリボンを忘れる女子生徒など、意識が不十分な生徒は依然多い。	来年度の着こなし講座についてはリモートで開催することも考慮に入れ、外部の力も借りながら正しい着こなし方の啓発を継続する。
	生徒理解と家庭との連携	欠席・遅刻における家庭との連絡を徹底して、家庭と協働した指導を行う。	保護者アンケートの「生活指導面で適切に指導している」で、肯定的な意見9割を目指す。	B		アンケートでは適切に指導していると回答した保護者は9割弱であった。3年生の2学期の欠席・遅刻が特に目立ち、コロナ対策と受験との狭間で生活習慣を整えられなかった生徒もいたかと思われる。	家庭との連絡は徹底してもらっているが、常習生徒に対する有効な解決策が見い出せないのが実状である。粘り強く指導を重ねたい。
	規範意識の向上	教職員からの積極的な声かけや、生徒会等と連携を行い、挨拶やコミュニケーションがきちんとできる生徒を育てる。	生徒アンケートの「挨拶が正しくできている」、「言葉遣いを正しくできている」と答えた生徒が2つとも9割以上である。	B		生徒会の挨拶運動を予定通りに実施できなかった。アンケート結果では両項目とも9割前後ができていると答えているが、実際にはまだまだ不十分に感じらる。	教科指導や立哨指導等、さまざまな日常場面での、教職員からのより積極的な声かけに取り組む。
進路指導	進路目標の明確化	1年次から自己発見・進路探究の学習活動を通して、具体的な進路目標を設定させる。また進路実現に向けて、主体的に学習し、基礎学力向上のために努力する生徒を育てる。	進路に関する情報ペーパーを年間3回以上発行し、進路についての関心を高める。また、模試の前には、事前学習をすすめるような教材を配布し、模試の後は、振り返りを促す取組をする。	B	B	情報ペーパーについては4～5回発行できた。進路関係の行事についての紹介や、生徒と保護者がともに進路について考えることが出来るような話題を工夫し、掲載した。模試の事後指導については十分にはできなかった。	情報発信を継続するとともに、模試結果返却の際に、課題を明確化し具体的な学習内容を提示するなど、事後指導に工夫を加える。
	進路に関する情報提供の充実	各ステージにおいて必要となる進路情報を検討し、適切に提供する。	生徒アンケートの「進路に関して十分情報提供されている」の項目で、肯定的な意見9割を目指す。	B		情報提供に対する肯定的な意見は84.5%であった。目標値には届かなかったが、過去3年間では最も高い値となった。	適切な時期に、生徒のニーズに応じた情報を確実に提供できるように努める。また、進路行事の参加への呼びかけをより積極的に行う。
地域・保護者との連携	開かれた学校づくり	オープンキャンパスの円滑な運営を、各分掌、学年と連携して行う。またホームページ等による広報活動の充実に努める。	オープンキャンパスにおける参加者対象アンケートで、「良かった」「大変良かった」と回答した生徒・保護者等の割合が昨年度（96%）を上回る。	—	B	新型コロナウイルスの感染拡大により、オープンキャンパスの実施を、e-オープンスクールに変更した。県内外合わせ約700名の申込みを得た。	オープンキャンパスとオンラインとの併用も検討しながら、事前準備（写真、動画等の収集）を計画的に進める。
	学校評価の活用	各種アンケートを活用して、学校改善に役立てる。	保護者アンケートの回収率が昨年度（72%）を上回る。	A		回収率が73%となり、昨年より増加した。学年・クラスによって差が見られた。	多くの保護者が記入しやすい方法を今後も検討したい。結果の活用に努める。
	育友会との連携	育友会が作成する新聞を発行するとともに、育友会活動への参加を促進する。	各専門委員会が主催する行事への参加者数1割増を目指す。	B		新型コロナウイルスの影響で限られた活動となったが、乗車マナー向上運動参加者については2割ほど増えた。	会合を持つのは難しい状況だが、スムーズな連携を工夫する。

分野	具体的目標 （評価小項目）	具体的方策	評価指標	自己評価結果 ※		成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等
防災	安全教育・防災体制の充実	避難訓練及びシェイクアウトを実施し、防災教育の充実を図る。	避難訓練を年2回必ず実施するとともに、シェイクアウトも実施する。	B	B	避難訓練は書面での実施となった。消防設備の使用訓練は生徒を限定して実施できた。	命を守る教育の実践を普段から意識し、防災意識の向上に繋げる。
人権・特別支援教育	人権意識の向上	ハートフルクラブと生徒会人権委員会を中心に、西和養護学校との交流や文化祭・人権講演会等の活動に主体的に取り組むことで、人権教育活動の推進役として生徒全体の人権意識の向上に努める。	生徒アンケートの、「いじめや差別のない学校」と答えた生徒が9割以上である。また、保護者のアンケートの、「人権に関する適切な教育が行われている」と答えた保護者が8割以上である。	B	B	生徒アンケートの、「いじめや差別のない学校」と答えた生徒が81.5%であった。また、保護者のアンケートの、「人権に関する適切な教育が行われている」と答えた保護者が78.5%であった。	引き続き一人一人を大切にした、きめ細かい方策を講じながら、生徒・保護者の満足度を高める。
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	支援を必要とする生徒の把握を行うとともに、生徒や保護者を対象としたカウンセリングを適切に実施する。	スクールカウンセラーの来校日についての広報や連絡を確実に行う。	B		生徒アンケートの、「生徒の悩みや相談に応じてくれる学校」と答えた生徒が75.2%であった。	相談生徒・保護者との連携をさらに図り、教育相談やカウンセリングの充実を図る。
健康管理	体力向上と健康管理	保健体育の授業を通して、また、運動部活動を通して体力の向上と健康管理意識の向上を目指す。	新体力テストで、校内平均が3種目以上を奈良県の平均程度まで引き上げる。	—	B	新型コロナウィルスの感染予防の為、実施できていない種目もあるため、データの比較は出来ない。	感染症の拡大状況を踏まえながら、有効な体力向上策を模索する。
	食育の推進	朝食の必要性を認識させ、その定着を図る。	保健だよりを毎月発行する。 生徒アンケートの、「必ず朝食をとる」と答えた生徒が8割以上を目指す。	B		保健だよりは毎月発行できた。アンケートは実施出なかった。	来年度は朝食摂取に加え、感染症予防対策として健康管理に努めたかどうかを計る指標を設ける。
情操教育	環境美化意識の向上	生徒会美化委員、美化係による、月1回の通学路清掃及び11月の校門前の落葉清掃により自主性を育てるとともに、環境美化に対する意識を向上させる。	美化委員会を年3回開催する。通学路清掃への参加徹底を図り、参加率10割を目指すとともに、クラブ員等による参加者率8割以上を目指す。	A	B	美化委員や美化係による各種活動は計画通り実施でき、参加生徒も多く、活動意欲の高まりを確認できた。ただ、普段のトイレの使用について、生徒の美化意識が乏しい場面が散見された。	日常の生活場面における、その都度ごとの指摘・指導を継続し、生徒の環境美化への意識を高める。
	文化行事の充実	文化祭における展示・発表等の内容の充実を図る。	文化祭についての事後アンケート（職員・生徒）で、肯定的な意見8割を目指す。	—		文化祭は中止となったため指標に基づく評価はできない。文化鑑賞会を2部構成で開催し、少ないながらも有志生徒の舞台発表を組み入れられた。また、文化委員会を中心に七夕飾りやリース作りを行い、学校生活に季節感と潤いをもたらす展示ができた。	コロナ禍の中、従来の形にとらわれず、生徒の創造力や関心を高める取組を企画し、展示、発表の機会を数多く設ける。
	生徒の自主的な活動の活性化	地域との連携を図り、社会参画の意識を向上させる。	周辺地域や小中学校との交流や協働行事、県主催行事について、年12回以上の参加を目指す。	B		生徒会、吹奏楽部、ボランティア部が交流や演奏やエコバッグの配布を行い、それぞれ好評であったが、予定通りの回数の活動はできなかった。	新型コロナウイルス感染対策による制限を考慮しながら、何ができ、何ができないのかを丁寧に吟味していく必要がある。生徒の意見や希望も聞きながら、諸行事の効果的な在り方を検討する。
		生徒会主催行事や、文化図書部との共催行事である文化祭を、生徒が主体的に活動・運営ができるように指導する。また、生徒会役員打合会を定期的にもつ。	生徒会主催行事や共催行事についてのアンケートにおいて、主体的に参加できた生徒85%以上を目指す。	B		文化祭が中止になり、生徒会主催行事等ができなかったが、アンケート結果は肯定的な回答が86.1%であった。コロナ禍の中、どう取り組むかが来年度の課題である。	
	読書活動の定着と文化講座の充実	読書週間に役立つお薦め本の紹介をする。また、文化講座を開催し、幅広く文化や伝統についての意識の向上を図る。	文化講座を年間2回開催する。	B		文化講座やカルタ大会は中止となったが、図書委員がポップ製作に取り組み、コンテストに応募した。優秀作品を校内に展示し本の紹介を行った。また、百人一首に関する国語科の課題作品を展示し、百人一首に親しむ一助とした。読書感想文のコンクールにも応募した。	コロナ禍の中での文化講座の在り方を工夫し、多くの生徒が参加し、読書への関心を高める方法を模索する。
第1学年	学力の向上	確かな学力を身に付け、自己の定めた進路を実現するため、努力を続ける生徒を育てる。	予習、復習を確実にする等、家庭での学習習慣を確立させ、コーナス講座への積極的参加を奨励する。	B	B	家庭学習の習慣を定着させるため、各教科から予習、復習の課題を計画的に出すなどの取組を進めた結果、ある程度の成果をあげることができた。	HR、授業等、折に触れて、基本的生活習慣、家庭学習の習慣の確立を目指した取組を継続する。
	規範意識の向上	基本的生活習慣を身に付け、規律を守り、集団のなかで自己の責務を果たすことのできる生徒を育てる。	各学期に1回以上の学年集会、日々のホームルーム活動や授業等、機会あるごとに注意を喚起し、規範意識の向上に努める。	B		時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いなどは、ほぼ達成できた。ただ、密集を避けるということで1学期の学年集会の開催はできなかった。	
第2学年	責任ある行動をとることができる生徒の育成	適切な言葉遣い、頭髪・服装の正しいあり方、規律の順守等を適宜指導し、望ましい生活習慣を確立させ、規範意識の定着を図る	生徒アンケートにおける規範意識に関する項目の肯定的意見の平均が8割を目指す。	B	B	規範意識に関する項目の肯定的意見の平均は8割を超えた。しかし、学校生活で、服装や頭髪で校則を遵守できない生徒が若干見受けられる。	授業、ホームルーム、学年集会でのより強い指導や、休憩時間等で積極的に声をかけるなどして、改善に努める。
	進路目標の実現のための学習の充実	進路目標を設定し、その実現のために授業と家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。	コーナス講座（進路講座）に積極的に参加させる。また、希望者受験の模試について積極的に参加させる。	C		コーナス講座の参加者は、のべ37名。希望受験の模試は19名。第3学年を目前に控え、積極的な参加が望まれる。	
第3学年	進路目標の実現	進路目標の実現に向けて、自ら進んで学習に取り組み、継続的に努力することができる生徒を育成する。また、最終学年として、他学年の模範となるような責任ある行動をとることができる生徒を育成する。	進路については、9割以上の生徒が第一志望の進路を実現することを目指す。	B	B	自己の進路目標の実現に向けて、主体的に学習に取り組む積極的な生徒が多く見られた。ただ一方では確たる目標を定められず、成績が伸び悩む生徒もいた。第一志望の進路実現は現時点で約8割5分である。早期の進路決定を望むあまり安易な妥協も散見された。	第一志望の進路実現に向けて努力を続けている生徒には、よりきめの細かい指導を行う。
学校関係者による評価		プロジェクターを活用した授業や表現探究コースなど、時代にマッチした教育活動が行われている。コミュニケーション能力の高い、即戦力となる人材が輩出されることを期待している。 新型コロナウイルス感染症で、教育活動全てにおいて大きな影響を受けながらも、生徒や保護者の不安を解消するために、学校全体で懸命に尽力されたのだと拝察する。 第2学年のC評価については、今年度のコロナ下の事情からやむを得ないように思う。来年度は、着実に成果を上げられることを期待する。					

※ 自己評価結果について・・・ 評価基準　A 90%以上（十分である）　B 70%以上（ほぼ十分である）　C 50%以上（あまり十分でない）　D 50%以下（改善を要する）